

## 第2回 笠岡市都市・地域総合交通戦略協議会

日時：令和3年12月23日（木）10：00～12：00

場所：笠岡市役所 3階 第1会議室

### <議事>

#### 1. 開会

#### 2. あいさつ

#### 3. 報告案件（第1回協議会の主な意見等について）

（委員）

- ・交通手段別についての“二輪車”は、どのようなくくりか。

（事務局）

- ・“自転車（個人所有）”“レンタルサイクル・コミュニティサイクル”“バイク（自動二輪車，原動機付き自転車）”を合算した結果である。

（委員）

- ・分けて集計することも可能か。

（事務局）

- ・個別で集計することも可能ではあるが，サンプル数も多く煩雑になる為，今回は合算して集計した。

（委員）

- ・概念図が現況の笠岡市都市計画マスタープランに近い為，笠岡東IC周辺に地域拠点を設定しておくこと。

（事務局）

- ・承知した。

#### 4. 戦略目標について

（委員）

- ・“バリアフリー車両等”については，バリアフリー法が改正され，そこでの基本方針としてユニバーサルデザインタクシーへ変更することが示されている為，文言の追加を検討

していただきたい。

- “電動キックボード”については、近年事故も多く世界的にも規制がかかっている。瀬戸田などでの走行は、交通量が少ないので快適だが、笠岡のような中心市街地で走らせることは、安全性の面からも慎重に進めた方がいい。
- 全国的な観点からも観光客に乗車してもらうことで、地域の公共交通を維持・確保していこうという思想がある。一方で、観光客が使いづらいとの懸念もある。例えば、若い世代の観光客は、鉄道駅等から google で経路を調べて、目的地まで行くことがあるが、そこで地域の公共交通が google に掲載されておらず、目的地までの行き方が分からないということがある。
- 笠岡では、既存の交通手段等も google に掲載されており、取組を推進している地域である。今後も新モビリティを導入する際には、google への交通情報の反映を留意してほしい。

#### (事務局)

- タクシー車両については、高齢者の利用も多い為、事業者やタクシー協会等に働きかけながら実施していきたい。
- 電動キックボードについては、近隣の矢掛町の道の駅でも実施しており、話題性のある取組の為、安全性は担保しながら観光客のアクセス向上に活用できればと思う。
- MaaSについては、笠岡市でも既に対応しているものはある。直近では、北木島で定時定路線とデマンド運行の双方の運行形態を、インターネット上で可視化するようになった。今後も様々な関係機関と協働しながら、取組を進めていきたい。

#### (委員)

- 電動車椅子については車道を走らせるものではなく、歩道走行が前提となる為、留意すること。

#### (委員)

- バリアフリー車両の生産を進めているが、車両が既存車両の1.5～2倍と高価の為、導入がなかなか進まない。井笠地区では、補助金の補填がないため、笠岡市は補助金の検討を進めていただきたい。

#### (委員)

- 公共交通と自動車利用とのすみわけは、どう考えているのか。パーソントリップ調査の結果を見ると、笠岡市内の交通は車中心だと思うが、戦略の中では公共交通しか書かれておらず、ギャップを感じる。現実と理想とのギャップをどのように埋めると考えているのか、提示していただきたい。例えば、“高齢者社会等を見据えた公共交通の充実”な

どの文言を追加すべき。

- ・本戦略の基本理念の赤線の意味について、説明してほしい。
- ・取組事業者を“バス事業者”から、“交通事業者”に見直すべき。
- ・取組のなかに、“高齢者タクシーチケットの見直し”が含まれており、一方で将来像には“デマンドタクシー等”と記載がある。デマンドで一本化するのか、引き続き高齢者タクシーを残すのか、明確にすべき。福祉局との調整は必要だが、個人的には一本化すべきと考える。
- ・“市街から中心市街地へのアクセス性の高い道路網の整備”について、ICから中心市街地へのアクセスには触れられておらず、踏み込んで書くべきと思う。
- ・3-3について、“観光拠点へのアクセス性”が突然でてくることに違和感がある。例えば、戦略目標3のタイトルを“中心市街地等”などと修正し、観光拠点も読ませるような含みのある文言に修正にすること。

#### (事務局)

- ・戦略3については、文言を修正し、見直しを行う。
- ・高齢者タクシーチケットは、高齢者の外出支援を目的に、平成29年から実験的に実施しており、来年度からは定着した制度として実施したいと考えている。これに代替する事業を模索しており、福山市で実施している乗合タクシーや、地域包括ケアが行っている「付き添いサポート」なども検討していきたい。
- ・本戦略の基本理念の赤線は、上位・関連計画を参考に、基本理念に繋がるような特に特徴的な部分を強調している。
- ・1-5“市街から中心市街地へのアクセス性の高い道路網の整備”については、市道や県道の管理者と協議しながら、ICからのアクセスの記載について、追記していきたい。

#### (委員)

- ・駐車場の配置や見せ方、考え方についても併せて検討した方が良い。
- ・将来を見据えると公共交通も大事だが、車移動で困っている方の将来戦略はどうなるのか。公共交通と自動車のバランス、駐車場の必要性、中心市街地の役割についても検討して欲しい。

#### (事務局)

- ・現在は立地適正化計画に示されている通り、コンパクトプラスネットワークの交通体系を検討している。中心市街地においては、できるだけ歩いて暮らせるまちづくり、市全体については公共交通と自動車のネットワークについて考えていきたい。次の協議会までには、考えを整理して示す。

(委員)

- ・バイパスの整備やICの整備、笠岡駅の整備の時期はいつを想定しているのか。それぞれを一度に進めるのか、個別で少しずつ進めるのか、方針を示していただきたい。
- ・2-2の“交通結節点”については、どこを対象としているか明確にいただきたい。
- ・3-2の“インスタ映えするバス停”については、実施が10年先であり、もう少しスピード感を持って早く実施すべきと思う。
- ・“とと道”や“銀山街道”は、とても良い観光PRだと思うが、笠岡市の計画ではあまり明記されていない。どこを対象に何を実施している取組か、教えていただきたい。

(事務局)

- ・2号バイパスと篠坂スマートインターは、現在整備を進めており、2025年(令和7年)に完成予定である。
- ・笠岡駅の南北自由通路等の整備は、駅周辺整備構想の中において、令和9年度完成を目標に準備をしている段階である。

(委員)

- ・若干ずれはあるが、計画どおりという認識で問題ないか。

(事務局)

- ・そうである。
- ・2-2については、市全体のバス停留所や待合所周辺の老朽化が進んでいる。特に尾坂線や航路の待合所の一部が老朽化しており、優先な着手を考えている。

(委員)

- ・特定の箇所ではなく、市全域を対象に、特に優先的に整備が必要な箇所から進めるということか。

(事務局)

- ・全市的に緊急性や安全性等の観点から、優先順位をつけて、対応を進めていくことで考えている。
- ・3-2のバス停の件については、話題性が高まるバス停を整備することを、事業者と協力して作っていきたいと考えている。バス停の整備だけでなく、若者協議会の方がバス停を掃除しているなど、バス停にストーリーをつくることを考えている。

(委員)

- ・“インスタ映え”という表現が意味しているイメージと違う為、直すこと。また、実施時

期は見直すこと。

(委員)

- ・“とと道”は明治時代に金浦～吹矢まで魚を運んでいた道のことで、地域の歴史家が発掘し、12月頃から徒歩やバスでのツアーも実施されている。全線のルートが分かったのは、最近であるなど、新たな観光の拠点になるのではと期待している。
- ・“銀山街道”は笠岡から島根県の大田の石見銀山までの交通のことである。様々な学説もあるが、今後観光として注目できるのではないかと考え、取組に追加しているところである。

(委員)

- ・グリスロについて、中心市街地を走る際の安全性についてどうか。
- ・トランジットモールとは、どのようなことを考えているのか。

(事務局)

- ・グリスロについて安全性は最優先に考えている。この夏もグリスロを中心市街地で実験的に走行しており、その際は安全性のため大きいルートを避けて走行した。
- ・時速19km以下なので、法律上シートベルトは不要だが、設置している車両もある。道路管理者や警察等と相談し、安全を担保した上で、次年度以降の検討を進めていきたい。
- ・トランジットモールとは、公共交通機関の占有レーンや交通規制を時間帯別で設置することであり、県庁通りなどで実施したいと考えている。歩行者や自転車が安全に走行できる環境の構築を目的に、迂回道路の設定やバス事業者等と調整をしながら、検討を進める。

(委員)

- ・トランジットモールは笠岡市では、関係ないのではないかと。
- ・笠岡駅の整備については、どの程度進んでいるのか。

(事務局)

- ・駅の基本構想で南北を一体化させることでにぎわいの創出を図り、利便性を向上させることを目標としている。JRとは以前から協議を進めており、まだ協議の途中である。

(委員)

- ・中心市街地一体はお寺が多く、古くからの伝統のお祭りや住まわれている方のコミュニティ、町内会、子供会、商店街の古いお店等も多い。そうした地域背景のもとで、“にぎ

わいの創出”とは、新たなものを作り出すようなイメージに感じてしまう。

- ・これまでの資料においても、住んでいる方のコミュニティ等、地域の暮らしのにおいがする表現があまりなかったと思う。

(委員)

- ・とと道や銀山街道等の笠岡にしかない、歴史や生活に根ざしたものが必要。地域のお寺やお祭り、風習、生活等のまちの魅力とは何かを再度見直しし、来訪者の世代や交通手段等を掘り下げ、どのような取り組みが来訪者を喜ばせることができるか、検討した方が良い。

(委員)

- ・観光客、移住してくる方の視点が多いと思う。地域の方がずっと住み続けたいと思える、戻りたいと思える街にしてもらいたい。地域住民の満足度や幸福度も計画の視点として、取り入れてほしい。
- ・居住促進エリアは、津波の危険性があるエリアの為、津波対策したうえで文言を追加すべきではないかと思う。

(事務局)

- ・笠岡市立地適正化計画で居住誘導区域を設定したエリアである。
- ・関連計画では約3時間後に津波が来る想定であり、3時間あれば、避難可能な時間と考えている。今後は、地域住民の方と協力して、避難訓練、避難体制を構築する取り組みをしていく。

(委員)

- ・観光客の方も一目で避難場所が分かるような、災害の視点を設けることも必要と思う。

(委員)

- ・3-2を“中心市街地を市民が訪れたいくなる、住み続けたいくなるような”という“住み続けたいくなる”という文言を追加することで、解決すると思う。また、“空き店舗や空き家の利活用”の後に“寺・祭り・風習等の地域スポットの活用”などと文言を入れると、これまでの発言にあった趣旨は入れることができる為、対応すること。

(委員)

- ・第7次笠岡市総合計画の前期版が今年度終了予定であり、12月議会にて、後期の総合計画を審議中である。8年の構想があり、本計画を作成している為、大きくは変わらないが、基本計画を踏まえて状況が変わる可能性があることを留意いただきたい。

- ・また、まち・ひと・しごと創生総合戦略についても、見直しを進めている。
- ・上記2つの変更については、次回の協議会で報告させていただきたい。

**(委員)**

- ・中心市街地のイメージについて、中心市街地の周遊性を向上させるとの記載があるが、にぎわいのある通りにモビリティを走行させ、観光できるような手段として位置付けていくべきではないかと思う。
- ・街の良い所を通るために、トランジットモールという言葉が入っているように思う。公共交通と歩行者の空間を合わせて検討すべき。

**・ その他**

**(事務局)**

- ・次回協議会は、2月初旬を予定している。

以上